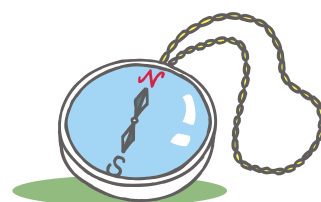


羅 針 盤

第 **26** 号

令和2年（2020年）11月24日（火）



◆ 一人ひとりの行動が学校を創る

11月もすでに下旬、2学期も残すところ、後1か月程となりました。1学期は教科授業の遅れを取り戻すことを最優先として学校行事を何一つとして実施することができませんでした。2学期に入って学校行事である3年生の修学旅行（10月8日～10日）、文化祭（10月30日）、体育大会（11月13日）を無事に終わることができ、生徒の皆さんの日頃の成果を目に焼け付けることができたことは、支援をしていただいた先生方に限ることなく、保護者の皆さまも安堵されたことと思います。体育大会での3年生の学校のリーダーとしての立派な姿を目の当たりにして、1・2年生の皆さんはその伝統を引き継ぐというバトンを受け取ったことと思います。3年生は進路に向け、1・2年生はより良い学校づくりに向け、大きく飛躍してくれることを期待しています。さて、後期の生徒会役員も選出され、各学級では、学級役員や各教科係などの役割分担が決定されたことと思います。より良い学校を創りだしていくためには、生徒の皆さん一人ひとりの行動によるところが大きいことは言うまでもないはずです。年度初めより何度も繰り返しお話している、「【あ】挨拶をする」「【ひ】人の話を聴く」「【る】ルール（学校のきまり）を守る」といったことは、誰もができて当たり前のことであると思います。その中でも、「ルール（学校のきまり）を守る」ことについては、日頃の身だしなみを整えること（服装をきちんとすること）や、時間を守る（時間を大切にすること）も含まれているはずです。生徒の皆さん一人ひとりの日頃の行動こそが、住吉中学校を創りあげていくのです。自分自身に与えられた役割を、最後まで責任を持って全うしていくことが、より良い学校づくりに貢献するということです。改めなければならないことは、直ぐに改め、善悪の判断をしっかりと持ちながら、今のままで良いのかということを常に自らに問いかけることを忘れることなく、充実した学校生活を過ごしてほしいと思っています。



◆ 小夏日和（こなつびより）

秋を通り過ぎてしまっ、冬の外気温まで近づいた日が続いたかと思えば、また急に25℃を超える夏日のようなぽかぽか陽気が戻って来たり、小春日和（こはるびより）を通り越して小夏日和（こなつびより）とも言えそうな日も続きました。「小夏日和（こなつびより）」、この言葉は造語ではなく、沖縄歳時記には11月の季語として取り扱われているそうです。空が晴れわたって、気温がぐんぐんと高くなる日がそう呼ばれるようです。ドイツでは、小春日和（こはるびより）は「老婦人の夏」と言われているそうで、気象エッセイスト倉嶋厚さんの話によると、日本で春の陽気を感じる天気をドイツで「夏」とするのは、向こうの国では夏がさわやかな季節というイメージが定着していて、日本人と欧米諸国の人たちとの感覚の違いがあるようです。

さて、3年生は先週、進路懇談が実施されましたが、進路の方向性を見いだすことができたでしょうか。冬を目前に控え、春まだ遠き日ではありますが、15の春を笑顔で迎えることができることを心より願っています。

